

1.設計方針

今後の超高齢社会を見据えて、「ふるさと美唄」において、安心して住み続けられる医療の提供とは何か、さらには住み慣れた地域で人生の最期まで過ごすことができる地域社会の実現は喫緊の課題であり、地域包括的な医療・介護・予防・住まい・生活支援の切れ目のないサービスを提供できる新たな社会システムづくりが不可欠であります。

このような状況の中、市立美唄病院は昭和18年の創立以来、75年以上にわたり地域の人々の命と暮らしを守る拠点として、良質な医療を提供し続けています。市立美唄病院の建替えにあたり、市立美唄病院建替え基本構想・基本計画に掲げる基本理念・基本方針に基づき、超高齢社会で求められる多様な市民サービスを提供できる「新しい市立美唄病院」を計画します。

2.施設整備方針

○利用者の視点に立った病院

- ・利用者とスタッフの動線は適切に分離し、わかりやすく使いやすい動線計画とします。
- ・利用者の療養環境の向上に配慮し、ゆったりとしたスペースの確保や自然光を積極的に取り入れるなど、明るく快適な環境を創出します。
- ・利用者のプライバシー確保と看守られている安心感を両立します。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、利用するすべての人にやさしく、安全で利用しやすい病院とします。

○将来に備えて汎用性のある病院

- ・将来の人口予測に基づく医療需要の変動に対し、5年ごとに病床規模・機能の見直しに対応した乾式間仕切り壁や二重床の採用などにより、自由なレイアウトが可能なフレキシビリティのある建築計画とします。また、将来的な設備更新や改修にも順応できる病院とします。
- ・地域の医療・介護関係者の連携を実現するため、多職種でのグループワーク等の研修を行う病院とします。
- ・イニシャルコスト、ランニングコストのバランスを考慮し、ライフサイクルコストを重視した費用対効果の高い病院を整備します。

○災害に強い病院

- ・自然災害時においても継続して対応できる安全性・耐震性を確保した建物を整備し、患者および職員の安全を確保し、行政や消防、地域医療機関と連携し適切な医療を提供します。
- ・災害時の医療業務継続の重要性の観点から、主要エネルギー設備室や病室、手術室、サーバー室などは、2階以上の階に配置します。

○職員が働きやすい病院

- ・職員の作業動線の短縮化を図るなど作業効率の向上の図られる働きやすい病院とします。

○感染症対策に配慮した病院

- ・感染症の流行等における院内感染防止のための感染対策を充実させ、患者・職員に対し安全安心な病院とします。

○環境に配慮した病院

- ・地球環境(二酸化炭素排出の抑制)や省エネルギーに配慮した病院とします。
- ・木材を積極的に利用し、断熱性、調湿性、木のぬくもりや癒し効果などにより、健康的で快適な空間を提供し、地球温暖化や室内環境にやさしい病院とします。



※イメージ図は基本設計時のものです。 今後、変更となる場合があります。